



ポスター発表

2月9日(木) 11:15~12:15 体育館

<提案のポイント>

①

【総合教育センター研修】
「学びと生活とのつながりを捉える力」を育成する学習シートの工夫
～算数科図形領域におけるつながりの実感を通して～

美郷町立六郷小学校 教諭 三浦 晋

小学校中学年のキャリア教育では、各教科での学習が生活や生き方に関連していることに気付かせ学ぶ意欲につなげることが求められている。そこで児童のキャリア発達を促すために、算数科図形領域において学びと生活とのつながりを実感できる学習シートを活用することで「学びと生活とのつながりを捉える力」を育成できると考えた。結果「学びと生活とのつながりを捉える力」が育成され、学ぶことの意義理解ができるようになってきた。

②

【総合教育センター研修】
生徒の主体性を育む道徳の指導の工夫
～『もしも私だったら』の活動を生かすガイダンスを通して～

秋田市立秋田北中学校 教諭 佐藤 俊

道徳的価値の深い理解の基、人としての在り方や生き方を考え続ける態度は重要である。そこで、道徳的価値を自分との関わりで考え、話し合いで多様な考えに触れる重要性を生徒が気付くガイダンスと、自分との関わりで考える発問「もしも私だったら」を取り入れた授業を構想した。ガイダンスが生徒の取組に及ぼす効果の検証結果から、道徳的価値を考え続けようとする態度（生徒の主体性）の育成に関する指導の工夫を提案する。

③

【総合教育センター研修】
情報社会に参画する望ましい態度を育てる指導の工夫
～SNSの有効活用とトラブル防止を目指した授業モデルの提案～

羽後町立羽後中学校 教諭 白石 和己

情報メディアの利便性向上に伴う児童生徒のSNSトラブル遭遇件数増加を背景に、情報メディアを適切に利用させていく必要があると考えた。そこで、SNSの有効活用とトラブル防止を目指した授業モデルを作成し実践した。その結果、生徒は、授業で自ら決定した情報メディアとの付き合い方を実行しトラブルを未然防止することができた。SNS利用を考える授業は、情報社会に参画する望ましい態度を具現化するための手立てとなった。

④

【総合教育センター研修】
小学校社会科歴史学習における学習問題に結び付く導入資料の開発
～児童の「問い」を引き出す年表を通して～

羽後町立西馬音内小学校 教諭 村田 研

社会科では、導入資料や主発問に対する疑問や予想等を引き出し、みんなで追究する学習問題設定が重要である。そこで、児童の「問い」を引き出すために意図的に空所を設定した年表と、「問い」を学習問題に結び付けるため焦点化した視点で考察できる資料を開発した。そして、資料を組み合わせ活用し、授業を展開した。その結果、年表からの「問い」を、ねらいに即しみんなで追究できる学習問題の設定に結び付けることができた。

⑤

【総合教育センター研修】
中学校美術科の共同制作における主体的な活動を支える指導の工夫
～造形的な要素を視点としたグループの活用～

秋田市立勝平小学校千秋分校 教諭 今野 雅子

中学校美術科の共同制作では、生徒は教師から提示されたテーマや材料、表現方法などにしたがって制作するということが大半であった。また、発想することを苦手に感じている生徒が少なくないという現状があった。そこで、これらの課題を解決するために、造形的な要素でのグループの組替えや話し合いの支援をすることによって発想が広がり、工夫して制作しようとする主体性が育まれた。



ポスター発表

2月9日(木) 11:15~12:15 体育館

<提案のポイント>

⑥

【総合教育センター研修】
中学校におけるネットセーフティモデルプランの作成
～実効性，継続性を高める生徒指導的なアプローチによる特別活動～

八峰町立八峰中学校 教諭 高松 幸博

ネットトラブルの低年齢化が進む中，ネットルールを作成する中学校が増えているが，実効性や継続性の面で課題が見られる。本研究では，中学校特別活動においてネットルールづくりを行うためのモデルプランを作成し，ルールづくりへの生徒及び保護者の参画を柱とする生徒指導的なアプローチを取り入れた。その結果，生徒や保護者の困り感を軽減し，家庭での約束づくりが促されるなど，実効性と継続性があることが確かめられた。

⑦

【総合教育センター研修】
漢字を使う意欲を高める学び合いを充実させるための支援の工夫

大仙市立太田東小学校 教諭 石川 隆

本研究では，漢字を使う意欲を高めるための支援の工夫に取り組んだ。漢字を使える語句や間違いを見付けたり，友達と問題を解き合ったりする学習活動を充実させ，漢字を正しく書くことが苦手な児童を含めて全ての児童が漢字を使う楽しさやよさを感じるように取り組んだ。複数の学習シートや見通しをもたせるような支援を工夫したことで，既習の漢字を使う割合が増え，漢字を使おうとする意欲が高まったと考えられる。

⑧

【総合教育センター研修】
高等学校専門学科における安全に総合実習を行うための集団づくり

県立秋田北鷹高等学校 教諭 武石 成正

高等学校専門学科の実習授業は危険が伴う。そこで安全に実習を行うための集団づくりを目指した。安全に実習を行うために，生徒同士による協力・配慮事項を生徒で話し合っまとめた。それを総合実習において実践して効果を検証した結果，生徒の安全意識が高まり，他の生徒を気遣う集団への変容が確かめられた。生徒による安全を目指した一連の学習活動を，高等学校専門学科における安全への取組例として提案する。

⑨

【総合教育センター研修】
特別支援学校小学部高学年における児童同士が関わり合う姿を目指した運動プログラムの作成
～二人組で行う運動を取り入れて～

県立栗田支援学校 教諭 高橋 沙織

知的障害特別支援学校に在籍する児童は，相手と共通したイメージをもちにくいという障害特性などから，相手の感情を理解し，場面に応じて対応することに難しさがある。そこで，人との関わりの発達段階に着目した二人組を作り，運動の発達アセスメントに基づいて運動内容を選択し，二人組での活動を取り入れた運動プログラムを作成した。二人組での運動を意図的に設定し，繰り返し行うことで，児童同士が進んで関わり合うようになった。

⑩

ローコスト支援入力装置でA君の学習を支援する

県立秋田きらり支援学校 教諭 高橋 正義

中学部1年のA君は脳性まひのため，体の緊張が弱く，不随意運動が多い。内言語は豊富だが，発声が不明瞭なため，伝えたいことを十分に伝えることが難しい。近年，ローコストな視線入力装置や対応したソフトが登場し，視線入力環境の整備が容易になりつつある。A君の瞳孔の動きを視線入力装置でとらえ，ソフトを操作することでA君は身近な人に自分の考えを伝えられる。本提案では視線入力装置の導入から文字入力の初期までの実践を報告する。



ポスター発表

2月9日(木) 11:15~12:15 体育館

<提案のポイント>

⑪

**主体的な社会参加につながる生活指導の在り方
～生徒一人一人の目指す姿に向けた生活指導
の仕組みづくり～**

秋田県立能代支援学校 寄宿舎指導員 小畑 敢菜
寄宿舎指導員 佐々木晶子

生徒一人一人の「自立と社会参加につながる生活指導」を目指し、「合意形成、合理的配慮に基づいた指導の実践」に取り組んできた。本人、保護者を交えた話し合い(アプローチ)、合理的配慮の提供、具体的な支援(実践)評価改善について、事例対象生徒の取組を発表する。

⑫

**【あきたリフレッシュ学園研修】
あきたリフレッシュ学園における体験活動と
キャリア教育との関連**

北秋田市立米内沢小学校 教諭 辻永 佳樹

本学園は、学校を休みがちな小中学生を対象に様々な体験活動を通して、心身のリフレッシュを図る機会を提供している。また、「社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成(キャリア教育)」のために、「ふるさとを学びの場とする多様な体験活動を充実させること(第2期あきたの教育振興に関する基本計画)」を重点としている。そこで、今年度学園で行った体験活動をキャリア教育の4つの視点で見直してみた。

⑬

**【保呂羽山少年自然の家研修】
体験活動プログラムを活用した集団づくり
～プロジェクトアドベンチャーの実践を通し
て～**

湯沢市立山田小学校 教諭 高橋 清

自然の家の体験活動プログラムの中から、集団づくりに効果的な手法の一つとして、プロジェクトアドベンチャーを取り入れた実践を行った。本実践について、先生方や子どもたちからは次のような声が寄せられた。「意外な子がリーダーシップを発揮していた。」「みんなで目標に向かって取り組むことができた。」「はげましの声をかけ合うことができてよかった。」「個や集団の変容が期待できる実践の内容やPAプログラミングを紹介したい。

⑭

**生徒が『気付き、考え、判断する』環境づくり
～キャリア教育の視点に基づく寄宿舎活動の
取組～**

県立大曲支援学校 寄宿舎指導員 田中 玲子

本校は平成4年から取り組んでいる地域への貢献活動が評価され、昨年度『未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー』で内閣総理大臣賞を受賞した。今年度はキャリア教育の視点に基づき、地域資源を活用し、体験的な活動を通して、自分の考えを伝え、自ら行動できる環境づくりを行った。その中で、新たな取組では生徒同士が協働し、自分の役割を果たすことで、人との関わりや社会生活に向けての意識が高まる活動となった。

⑮

**【日本学術振興会 科学研究費奨励研究】
高校物理における形成的アセスメントの実践
～問題演習を中心として～**

県立横手清陵学院高等学校 教諭 瀬々 将吏

「形成的アセスメント」は、学習到達目標と学習者の現状とのギャップを縮めることに焦点を当てた指導法・学習法である。高校物理の授業において、宿題とテストを兼ねた「あきた式学習ノート(改)」を中心とした形成的アセスメントを実践した。その成果を、生徒の学習観、教員の授業観、生徒の学習達成度などから多角的に検討した。【提案】秋田県の優れた教育をその土台とし、形成的アセスメントの理論と実践を積極的に取り入れることを提案する。



ポスター発表

2月9日(木) 11:15~12:15 体育館

<提案のポイント>

⑬

【県立博物館研修】
博物館の収蔵品を活用した電子版社会科副教材の開発
～電子版『わたしたちの八郎潟町VER. 3.0』の編集を通して～

八郎潟町立八郎潟小学校 教諭 淡路 浩昭

博物館収蔵品を多数活用して、旧来の電子版社会科副教材『わたしたちの八郎潟町』の改善を図った。資料提示・知識伝達だけでなく、児童へ問いかけ、児童が新たな学びへと向かうことができるオープンエンド型の副教材となるよう工夫した。特に、小学校3年社会科「古い道具と昔の暮らし」の単元では、授業の導入や調べる際の資料として、大いに活用できると考える。さらに、地域の情報を更新し、児童の探究心に応えるものとなった。

⑭

知的障害特別支援学校に在籍する肢体不自由を併せもつ児童生徒の自立活動の取組
～重度重複障害のある児童生徒の学習内容充実のために～

県立ゆり支援学校 教諭 斎藤由紀子

本校には、重度重複障害のある児童生徒が数名在籍しており、自立活動を中心に学習している。今年度は、知的障害の特別支援学校での自立活動の在り方を考えるために、授業参観や研修会を実施して指導内容や支援方法について共通理解を図ってきた。実態把握や個別学習を担当に任せてしまいがちだが、学部ごとに全職員で各児童生徒の実態を見つめ直し、自立活動関連表を作成して具体的に学習へ生かすようにした。今後、実践集をまとめて指導内容を引き継いでいきたいと考えている。

⑮

【平成28年度（公）
齋藤憲三・山崎貞一顕彰会助成研究】
高等学校理科における微生物に関する簡便な実験の教材開発に関する研究

県立秋田高等学校 教諭 遠藤 金吾

現行学習指導要領「高等学校生物基礎・生物」では遺伝子分野の記述が大幅に強化されている。しかし、分子生物学や微生物学の分野は各教材会社からキットも販売されているものの実験に多額の費用がかかることもあり、高等学校における学習は座学中心であり、実体験を伴った理解をしにくいことが課題となっている。このような分野の実験をより安価に、簡便に行える条件を検討することを本研究の目的とし、その成果を発表する。

⑯

「自ら考え意欲的に行動する力」を育む

県立聴覚支援学校 寄宿舎指導員 五十嵐千穂

本校寄宿舎は、舎生数の減少により舎生同士の関わりが限られているという現状にある。そこで、2年前より地域資源を生かした児童館での交流活動を通し、関わり方や行動を学ぶ機会を設定した。児童、職員共に様々なシートを活用し、事前に目標を立て、事後で振り返り、報告会を行うというサイクルを積み重ねたことで、児童は次の活動への意欲が高まり、職員は実態に合わせた適切な支援が明確になった。